

2-P-7

長田区における多文化・多言語環境のためのネットワークづくりに関する研究

内橋 一恵¹⁾

長田区には多文化共生分野での取り組みを行う NPO などの団体が多く存在し、母語・母文化・日本語教育支援分野での取り組みの歴史も長い。今回の研究でフィールドワークを行ったところ、阪神・淡路大震災の後に誕生した団体が多く、それぞれがコミュニティを形成しているが、昨今の地域の多文化化と多文化共生への社会的な関心とニーズの高まりにしたがって、長田区が多文化分野への「新規参入」の団体との接続不良や摩擦が観察された。さらに、子どもへの支援に注目すると、支援団体同士での連携や協働が少なく、子供を中心にした包括的な支援には至っていないことがわかった。

また、長田区内の公立小学校内で行われている JSL 教室 (JSL: 第二言語としての日本語) でのフィールドワークを継続して行なったところ、ボランティア活動をベースに成立してきたという経緯があるために、教育活動に必要な教材等の多くが支援者の自己負担となっていることがわかった。

こうした実情を踏まえ、2022 年 4 月から本学の子育て総合支援施設 KIT と神戸国際交流センター (KICC) の連携で始まった、外国にルーツのある子どもを対象にした日本語支援と学習支援を行う教室では、教材費の負担がないように配慮した。また、支援員と他の団体が研修で交流を行い、子どもを多面的に捉えるための情報交換や、接遇のアドバイスを得られるようにし、子どもを中心にしたネットワークづくりの一步を踏み出したところである。

1) 事務局法人本部社会連携課